

大城ひかるのベトナム



通信

-29-

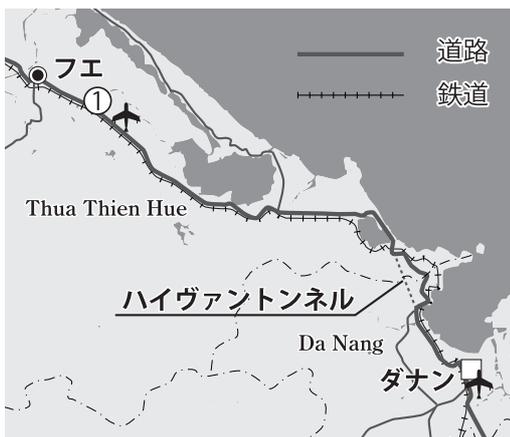
シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ

「ハイヴァン峠」という地名を初めて聞いたのは、ベトナムに来てから1年ほど経ったエンジンアのスピーチクラスです。土木系の学生が「技術者を志したきっかけ」としてハイヴァントンネルを挙げ、道路トンネルとして東南アジア最長であること、トンネルのおかげで通行が安全で便利になったこと、工事を

行ったのが日本企業だったため、そこから日本に興味を持ったことなどを話してくれました。

話を聞いて「機会があったら行ってみよう」くらいには思ったのですが、本気で「行こう」に変わったのは、フエとダナンでは100kmしか離れていないのに気候も人の性格も考え方も違うと聞いてからです。確かにフエにはひんぷんがありますが、ダナンでは全く見ません。文化の伝達をハイヴァン峠が阻んだと知り、「これはぜひ行ってみなければ」と思うようになった。

ご承知の通り、ベトナムは南北に細長いS字の形をしています。真ん中付近にあるのが旧首都フエと中部最大の商業都市ダナン。2都市の西には



フエとダナンの間にあるハイヴァン峠

3 通り楽しめるハイヴァン峠

ラオスとの国境となるチュオンソン山脈がそびえます。ここから続くバックマー山脈の最も海側に標高480mのハイヴァン峠があり、昔から交通の難所として知られていたそうです。

ここを通るのが国道1号。北は中国国境と接するランソン省から、南は最南端のカマウ省まで、文字通りベトナムを南北に貫く主要幹線道路です。雨季にはしばしば地滑りや落石事故なども発生していたため、2005年、日本のODAでトンネルが完成しました。当初は対向2車線でしたが、2年ほど前に片側2車線に拡張されたとのこと。先日、車で通った際にスマホで計ってみたところ、トンネルの入り口から出口まで6.3kmを5

分29秒で通過しました。

トンネルも楽しいのですが、フエ発ダナン行き鉄道のハイヴァン峠越えは格別。そして座席は進行方向左側に限ります。

フエ駅を出発した列車は平坦な地形を国道1号と並走して南下。いくつか鉄橋を越え、左手の美しいバックマー(白馬)の山々を眺めていると、右側に海が現れます。実はここはラグーン。列車は

ここで海側を行く国道に別れを告げ、内陸部を走ります。湖の最南端で再び出会った時には、国道はトンネルの中へ消えて行き、列車はその上の峠道を登っていくのです。

2時間半の鉄道旅のクライマックスは山の上から眺めるダナンの海。息を飲む絶景に、私は目頭がじーんと熱くなりました。崖を通る線路はスリルもあります。日本の旅行番組でも紹介されたそうです。

別の日には、バイクで

のハイヴァン峠越えも経験してみました。バイクだと好きな場所に止めて写真を撮ったり、好きなだけ景色を眺めたりできますが、車だとうはいきません。海を見下ろすカフェは恋人たちでにぎわっていました。家族連れや若い人たちのツーリングコースとしても人気のようで、家族や友人と出かけた八重山のパンナ岳を思い出しました。

今月は私が体験したこのようなベトナムの観光スポットを紹介します。



バイクや危険物を積んだ車両はトンネルを通れない(筆者撮影)